

# 岩手県 事業者向け省エネルギー対策推進事業

## 申請の手引き



岩手県環境生活部環境生活企画室

令和3年4月

## 目次

1	事業の目的	2
2	申請期限等	2
3	補助対象者	2
4	補助金の交付対象設備	4
5	補助対象経費及び補助率等	6
	(1) 補助対象経費	6
	(2) 補助率等	6
	(3) 注意点	7
6	省エネ効果に関する情報発信と県事業への積極的な協力等	8
	(1) 社外への情報発信	8
	(2) 従業員の意識啓発	8
	(3) 県への定期的な報告	8
	(4) 県事業への積極的な協力	8
7	事業の流れ、申請方法等	9
	(1) 事業の流れ	9
	(2) 事業実施期間	9
	(3) 申請方法等	10
	① 省エネ診断の受診	10
	② 申請	10
	③ 審査	11
	④ 県による交付決定	11
	⑤ 対象設備導入に係る業者との契約及び設備導入工事	11
	⑥ (完了報告) 請求書の提出	12
	⑦ 補助金の交付	13
8	事業の実施後の留意事項	13
	(1) 事業実施後の県事業への協力等	13
	(2) 財産の適正管理	13
	(3) 財産の処分に係る申請等	13
	(4) 関係書類の保管	13
	(5) 立入検査等	13
9	その他関連事項	14
	(1) 耐用年数表 [抜粋]	14
	(2) 外部参照	15

## 1 事業の目的

県内の中小事業者等の地球温暖化対策の推進を図るため、省エネルギー効果の高い設備の導入し、その効果（省エネルギー効果や経費節減効果など）を積極的に情報発信する事業者を補助することにより、事業活動で発生する温室効果ガス排出の削減を図ることを目的としています。

## 2 申請期限等

(1) 申請期限

**令和4年1月31日（月）まで**

かつ、**事業に着手する予定日の20日前まで**に提出してください。

(2) 提出方法

郵送又は持参で御提出ください。

(3) 提出先

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

岩手県 環境生活部 環境生活企画室 温暖化・エネルギー対策担当

## 3 補助対象者

**県内に拠点を有する中小事業者等**が対象です。

また、次の要件を満たす必要があります。

- ・ 省エネルギー診断を受診し、施設全体の省エネルギー改善に係る提案を受けること
- ・ 今後も継続的な事業活動を行うものであること
- ・ 国、地方公共団体等が交付する他の補助金を受けていないこと
- ・ 県税を滞納していないこと

### 【解説】

1 「中小事業者等」とは、次の①または②に当てはまる事業者で、岩手県内に事業所等を所有し、事業活動を行っている者としています。

① 「資本金の額又は出資の総額」、「常時使用する従業員の数」のいずれかが、下表の数値であること。

業種 (日本標準産業分類で定める業種)	資本金の額又は 出資の総額	常時使用する 従業員の数
① 製造業、建設業、運輸業、その他の業種（②～④以外の業種）	3億円以下	300人以下
② 卸売業	1億円以下	100人以下
③ 小売業	5,000万円以下	50人以下
④ サービス業	5,000万円以下	100人以下

※中小企業基本法（昭和38年法律第154号）の規定によるもの

② 事業所等の年間のエネルギー使用量（原油換算値）が1,500kl未満であること。

※年間のエネルギー使用量（原油換算値）は、経済産業省HPに掲載の「エネルギー使用量の簡易計算表」等で計算し、確認してください。

《経済産業省HP》

[https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving\\_and\\_new/saving/summary/](https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/summary/)

■自社のエネルギー使用量を把握するための計算ツール

【解説 続き】

※①に該当しない法人（例：大企業一般社団法人、医療法人、社会福祉法人等）であっても、②に該当すれば対象となります。

※ここで言う「事業所等」の例は次のとおりです。

- ア 工場、作業場、店舗、事務所等の建物
- イ アに付随する倉庫、駐車場等
- ウ 住宅と一体の店舗にあつては、その店舗部分
- エ 不動産賃貸業における賃貸物件にあつては、その共用部分
- オ その他、これらに類する施設と認められるもの

2 「省エネルギー診断（以下「省エネ診断」という。）」とは、エネルギーの使用状況や建築物の構造等の調査及び分析に基づき、専門家によりエネルギー使用の合理化に資する措置を明らかにすることをいいます。

具体的には、国により指定された機関が実施する省エネ診断とします。

例：一般財団法人省エネルギーセンター

<https://www.eccj.or.jp>

相談・連絡先

TEL 022-221-1751

E-mail [thk@eccj.or.jp](mailto:thk@eccj.or.jp)

経済産業省「地域プラットフォーム構築事業」による診断機関

<https://www.shoene-portal.jp>

環境省「工場・事業場における先導的な脱炭素化取組推進事業」による診断機関

3 省エネ診断は、

①申請日の3年以内に受診したもの または

②申請後から完了報告までの間に受診するもの

を対象とします。②の場合、申請時に省エネ診断を申し込み済みであること、診断日がいつであるかについて確認します。

ただし、後述の交付対象設備に記載している説明のとおり、②が適用されるのはLED照明の申請の場合だけです。空調設備、給湯設備、変圧器については、事前の省エネ診断が必要であるため、申請後に診断を受ける（②の方法）はできませんので注意してください。

## 4 補助金の交付対象設備

対象設備は、既存に替えて導入する設備で既存設備と使用用途が同じであり、かつ、設置に際して工事を伴う設備を対象とします。

なお、次の場合は補助対象外ですのでご注意ください。

- ・ 申請時点で設置工事を発注済み、またはすでに工事に着手しているもの
- ・ 新築物件への設置や、既存の設備とは別に増設するもの
- ・ 設置に際して工事を伴わないもの（LED電球のみの交換、コンセント設備を使用する照明器具、移動可能な空調設備等）
- ・ リースで導入するもの
- ・ 中古品またはそれに類するもの
- ・ 県外事業者から購入したり、県外事業者へ設置工事を発注するもの
- ・ 国や地方公共団体が所有する施設へ設置するもの

補助対象となる各設備はそれぞれ次に掲げる要件を満たすものとしします。

	設備	要件
1	LED照明	・ 既存の照明と比較して、年間電力使用量を50%以上削減できると見込まれるもの
2	空調設備	・ エネルギー効率が、省エネ診断の結果で示された数値と同等かそれより優れているもの
3	給湯設備（ヒートポンプ式、潜熱回収型又は熱電供給システム）	
4	変圧器（変圧器の本体部分に限る）	・ 能力値が、省エネ診断の結果で示された数値と同等かそれ以下のもの

### 【解説】

#### 1 LED照明

- ・ 年間の使用電力量は、  
「消費電力（ワット数）」×「一日の使用時間」×「年間使用日数」  
で計算します。
- ・ 「年間電力使用量を50%以上削減」は、照明毎に新旧を比較するのではなく、照明全体の合計値の新旧を比較します。
- ・ 同じ使用用途であれば、照明の分割設置も可能です。例えば、「照明効率の関係から、500W水銀灯1灯を60WのLED3台にする」場合は、結果的に台数が1台から3台に増えますが、新設とは見なさず、既存設備に替えて設置したものとして取り扱います。
- ・ また、同じ使用用途であれば設置箇所を変えることも可能です。例えば、「これまで3台×8列で配置していたが、4台×6列に再配置する」場合が該当します。

【解説 続き】

○空調設備、給湯設備、変圧器のエネルギー効率

2 空調設備

- ・ エネルギー効率はカタログに記載の「COP」または「APF」を用い、導入する設備の数値が省エネ診断の提案値と同等かそれ以上のものを選択してください。
- ・ なお、カタログに COP の値が記載されていない場合は、  
「能力 (kW) ÷ 消費電力 (kW)」  
で計算することができます。

3 給湯設備 (ヒートポンプ式、潜熱回収型又は熱電供給システム)

- ・ エネルギー効率はカタログに記載の「COP」または「給湯熱効率」を用い、導入する設備の数値が省エネ診断の提案値と同等かそれ以上のものを選択してください。

4 変圧器 (変圧器の本体部分に限る)

- ・ エネルギー効率はカタログに記載の「エネルギー消費効率 (W)」を用い、導入する設備の数値が省エネ診断の提案値と同等かそれ以下ものを選択してください。(変圧器のエネルギー消費効率は、数値が小さいほど優れています)。
- ・ エネルギー効率の数値が具体的に提案されず、単に「トップランナーII」と記載されている場合は、「2014年トップランナー基準値」に適合した製品を選択してください。

○空調設備、給湯設備、変圧器の能力

2 空調設備

- ・ 能力は「能力 (kW)」を用い、導入する設備の数値が省エネ診断の提案値と同等かそれ以下のものを選択してください。

3 給湯設備

- ・ 能力は「能力 (kW)」を用い、導入する設備の数値が省エネ診断の提案値と同等かそれ以下のものを選択してください。
- ・ 給湯タンク容量の指定があった場合は、それと同等かそれ以下の容量としてください。

4 変圧器

- ・ 能力値は「容量 (kVA)」を用い、導入する設備の数値が省エネ診断の提案値と同等かそれ以下のものを選択してください。

2～4 共通

- ・ 能力値は、上に記載したとおり、省エネ診断で提案された能力値と同等かそれ以下でなければなりません。提案通りの能力値の製品が市場に無く、最も近い性能の設備を選択した場合に能力が多少増加する場合は、やむを得ないものとして認める場合がありますので、事前にご相談ください。

## 5 補助対象経費及び補助率等

### (1) 補助対象経費

対象設備の購入及び設置工事に要する経費とし、具体的には下表を参考にしてください。なお、消費税及び地方消費税は補助対象経費としません。

対象	対象外
<b>設備費</b> ・ 導入設備の購入費 ・ 設備設置に必要な消耗品、備品等の購入費 <b>設計費</b> ・ 設備設置に必要な設計に要する経費 <b>工事費</b> ・ 設置作業費 ・ 高所作業車 ・ 既存設備の撤去作業費 <b>その他必要な経費</b> ・ 管理費	<b>経費用途が不明確な経費</b> ・ 諸経費 ・ 雑費 <b>購入、設置に直接関係無いもの</b> ・ 廃棄物処理費、フロン処分費 ・ 書類作成費 ・ 運搬費（外部から施工現場への設備等の搬送費用） ・ 交通費 ・ 手数料 <b>機能の追加や予備の用途のもの</b> ・ 設備本来の機能とは別に設置する人感センサー、増設スイッチ等 ・ 将来用、予備用の設備や交換部品等

### (2) 補助率等

一般の申請と、「いわて地球環境にやさしい事業所」認定制度の認定事業所による申請では、補助率、補助上限が異なります。（認定事業所を優遇します）

#### ①一般

- ・ 補助率：補助対象経費の**3分の1以内**
- ・ 補助上限：1事業所あたり**30万円**

#### ②いわて地球環境にやさしい事業所

- ・ 補助率：補助対象経費の**2分の1以内**
- ・ 補助上限：1事業所あたり**50万円**

なお、千円未満の端数がある場合は切り捨てます。

#### 【解説】

##### 1 補助率、補助額関係

一事業所にLED照明と空調設備を両方導入するなど、複数の種類の設備を導入する場合でも、補助金の上限は変わりません。

ただし、別々の事業所に設置する場合には、それぞれ別に上限を設定します。例えば、一般区分の場合で、盛岡本社にLED照明導入で30万円、北上支社にLED照明と空調設備導入で30万円、合計60万円の補助を受けることは可能です。

※公平性の観点から、同一年度内の1社あたりの補助件数は2回まで、この補助事業の全期間を通して3回までとします。

また、同一事業所が補助を受けられる回数は1回までとします。

【解説 続き】

2 「いわて地球環境にやさしい事業所」について

県では、二酸化炭素排出の抑制のための措置を積極的に講じている事業所を「いわて地球環境にやさしい事業所」として認定しています。

本補助事業の優遇のほか、認定を受けた事業者は、省エネ設備導入の低金利融資、電力料金の割引、県営建設工事競争入札参加資格審査、産業廃棄物処理業者格付制度等にて優遇を受けられます。(ただし、それぞれ一定の要件がありますので、詳細は以下の県ホームページをご参照ください)

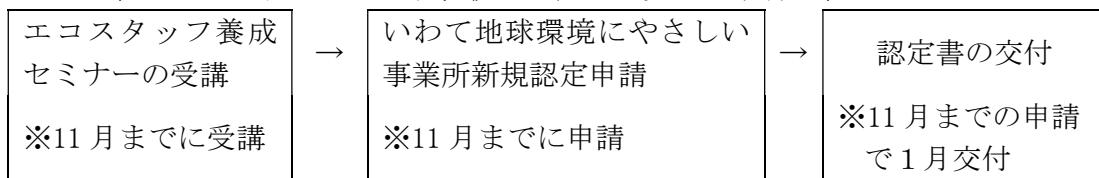
本事業による補助金も、認定を受けた事業所に対象設備を導入する場合に、補助率、補助上限額を優遇します。

認定を受けるには、エコスタッフ（県が主催したエコスタッフ養成セミナーを受講した者、またはその他の要件を満たす者）がいること、県に認定申請書提出して所定の審査を受ける必要があります。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/kankyou/seisaku/jigyosho/1005672.htm>

1

このため、エコスタッフがおらず、初めて認定を受ける場合は、



の順番で手続きを行ってください。

(3) 注意点

いわて地球環境にやさしい事業所の区分で申請をするには、次の2つの要件をどちらも満たす必要があります。

- ① 申請時： 有効な認定書を取得済みか、まだ認定を受けていないが認定に向けた手続きを進めている最中
- ② 完了報告時： 有効な認定書を取得している

【解説】

「認定に向けた手続きを進めている最中」とは、

- ・いわて地球環境にやさしい事業所の認定申請書を提出済みで、現在審査中
- ・エコスタッフ養成セミナーに申し込み済み（その後、認定申請予定）

の場合を言います。

状況の確認のため、認定申請書のコピーか、エコスタッフ養成セミナー申込書のコピーを提出してください。

また、申請時には有効な認定書を取得していても、完了報告時に認定の期限が切れていると対象外になりますので、年度途中で認定の期限が切れる場合には、忘れずに認定を更新してください。



## 6 省エネ効果に関する情報発信と県事業への積極的な協力等

補助金の交付を受けた翌年度から2年間、社外への情報発信、従業員の意識啓発を行うとともに、省エネ効果のデータを県へ報告するなどのご協力をいただきます。

具体的には次のとおりです。

### (1) 社外への情報発信

以下のことについて、ポスターの掲示や業界団体の会誌への掲載等により、情報発信を行ってください。

- ・ 県の補助金を活用して設備更新をしたこと
- ・ 具体的な省エネ効果及びそれに伴う経費節減効果

### (2) 従業員の意識啓発

従業員に対し、社内の省エネ取組の促進や、従業員の各家庭での省エネ取組の促進を促してください。

### (3) 県への定期的な報告

具体的な省エネ効果及びそれに伴う経費節減効果の詳細なデータ、(1)(2)の取組内容について、毎年県に報告してください。

### (4) 県事業への積極的な協力

事例発表やデータの公表など、県が行う温暖化対策の各種事業に対して、積極的な協力をお願いします。

#### 【解説】

(1) 情報発信の方法としては、窓口や応接室など来客の目に触れやすい場所へのポスター掲示、来客者に配布するリーフレット等への印刷、業界団体の会誌や広報誌への掲載、会社のホームページへの情報掲載などが考えられます。

(2) 従業員への意識啓発としては、社内での省エネ勉強会等の開催や、家庭のエコチェック(後述)を従業員に配布して各家庭での取組を記入してもらうこと等が考えられます。

#### <家庭のエコチェック>

「未来の地球のために、みんなでできることから始めましょう！」

をキーワードに、家庭でできる省エネ取組をチェックするアンケートです。

以下のホームページでアンケートチラシを入手できますので、ぜひご参加ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/kankyou/seisaku/ondanka/1025482.html>

(3) 上記(1)(2)の実施内容について、その状況が分かる資料や写真等を、定期的に県へ報告していただくものです。また、設備導入後の毎月のエネルギー使用量とそれに係る経費額のデータを、所定の様式に記入のうえ県に提出していただきます。

(4) 県が主催するセミナーや説明会での事例発表、イベントでの掲示用資料の作成、また事例集の作成に、積極的にご協力いただくものです。

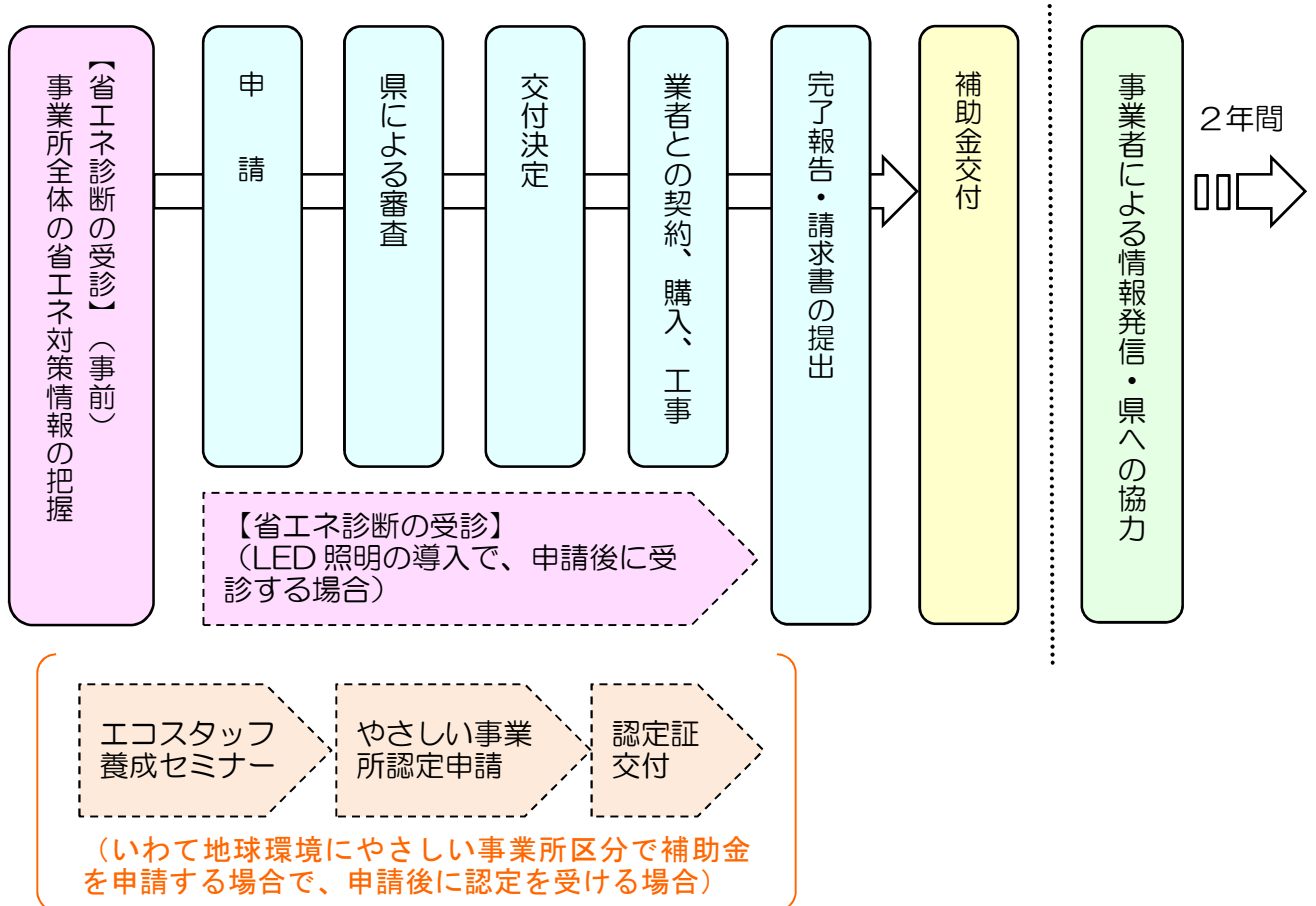
## 7 事業の流れ、申請方法等

### (1) 事業の流れ

本事業の流れを次に示します。

なお、申請を希望される場合、必ず事前に当室まで御相談ください。

#### 【事業フロー】



空調設備、給湯設備、変圧器の導入の場合、「申請前に」省エネ診断を受診する必要がありますのでご注意ください。

省エネ診断は、申し込んでから結果が出るまで1か月以上かかりますので、余裕をもって申し込むようにしてください。

### (2) 事業実施期間

申請者の事業実施期間は、次の考え方による事業着手日から事業完了日までとします。

事業着手日：設備の購入及び設置工事に係る契約書等の発行日

事業完了日：工事完了日又は支払い義務額を支払った日のいずれか遅い日

(ただし、上記の日よりも後に省エネ診断報告書を受領した場合や、「いわて地球環境にやさしい事業所」認定書が交付された場合は、その最も遅い日を事業完了日とします)

## 【解説】

### 1 事業着手日について

- ・ 「契約書等」とは、契約書以外に、「発注書・発注請書」及びそれに類する書類を含みます。発注書・発注請書の取り交わしにより契約と見なした場合、「発注請書の発行日」を事業着手日とします。
- ・ 設備の購入と設置工事を別の業者に委託する場合など、契約書等が複数取り交わされた場合には、全ての契約書等のうち最も早い発効日を事業着手日とします。
- ・ 事業の着手は、必ず交付決定日以降としてください。

### 2 事業完了日について

- ・ 工事完了後に支払い義務額を支払った場合は支払日が事業完了日となり、代金先払いの場合は工事完了日が事業完了日となります。
- ・ 設備の購入と設置工事を別の業者に発注し、別々に代金を支払った場合には、全ての支払日のうちのうち最も遅い日を「支払い義務額を支払った日」とします。
- ・ 事業完了日の最終期限は事業実施年度の2月末日までとなっています。2月末日までに工事完了及び支払い義務額の支払いが完了していたとしても、省エネ診断報告書の受領日が2月末日を過ぎた場合は事業完了とみなさず、補助対象外となりますので、十分にご注意ください。
- ・ また、有効な「いわて地球環境にやさしい事業所」の認定書を2月末日までに取得できなかった場合は優遇の補助金を受けることができませんので、十分にご注意ください。

## (3) 申請方法等

### ① 省エネ診断の受診

本事業に申請する事業者は、申請前、または申請後に省エネ診断を受診する必要があります。

省エネ診断の詳細は、「3 補助金対象者」及び「4 補助金の交付対象設備」を御確認ください。

### ② 申請

次の書類を揃え、申請書を提出します。

#### ア 提出書類

- (ア) 事業者向け省エネルギー対策推進事業費補助金交付申請書（様式第1号）
- (イ) 会社概要（会社案内のパンフレット等）
- (ウ) 設備の購入及び設置工事に係る県内事業者2者以上の見積書の写し
- (エ) 設備の購入及び設置工事に要する経費の内訳が確認できる資料（明細書等）
- (オ) 設備の新旧対照表
- (カ) 設置設備の内容が確認できる書類（カタログ等）
- (キ) 施設の平面図に設備の設置箇所を示した図面
- (ク) 設備設置前の状況が確認できる写真
- (ケ) 県税納税証明書（県税について未納の額が無いことの証明書）の写し
- (コ) 省エネ診断の結果の写し（交付申請の3年前までに省エネルギー診断を受診し

た場合)

- (サ) いわて地球環境にやさしい事業所認定書の写し等（「いわて地球環境にやさしい事業所」の区分で交付申請する場合）
- (シ) 中小企業者以外にあっては年間のエネルギー使用量（原油換算値）が確認できる書類
- (ス) 補助金振込口座の通帳の写し
- (セ) その他必要な書類（申請内容に応じて御提出いただくことがあります）

イ 提出期限

事業に着手する予定日の 20 日以前、または、補助金の交付を受けようとする年度の 1 月末日のいずれか早い日とします。

ウ 提出部数

1 部

エ 提出方法

郵送又は持参で御提出ください。

オ 提出先

岩手県 環境生活部 環境生活企画室 温暖化・エネルギー対策担当  
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1

③ 審査

県は、事業者から提出された申請書や添付書類について内容が適切であるか、また、書類に不備等が無いかが審査します。

**【注意】**

提出いただいた書類に不明点があったり、記入内容の不備及び必要書類の不足等があったりした場合、不明点の確認や書類の修正・差し替え等がなされるまで審査は行われません。その分、審査完了が遅れることとなりますので、事業着手の予定日まで十分な余裕をもって申請してください。

④ 県による交付決定

県は、③審査の結果、補助金を交付すべきと認めた場合は、申請者に対し、交付決定通知書を通知します。

⑤ 対象設備導入に係る業者との契約及び設備導入工事

ア 事業の着手

設備の購入及び設置工事に係る契約を業者と締結します。その後、設備の導入工事を行います。なお、事業の着手は、必ず④の交付決定後に行ってください。

イ 事業の変更

事業を変更（中止・廃止等を含む）する場合は、事業者向け省エネルギー設備導入促進事業費補助金交付変更（中止・廃止）承認申請書（様式第 2 号）を変更（中止、廃止）の理由が生じた日から 30 日以内に県に提出する必要があります。

**【注意】**

次に掲げる事項が生じた場合、事業の変更（中止・廃止）承認申請を行う必要があります。

- (1) 補助事業の中止又は廃止
- (2) 事業実施主体の変更
- (3) 補助対象経費の 30 パーセントを超える増減
- (4) 補助金額の増減を伴う変更

※事業内容の変更の可能性が生じた場合には、速やかに県に報告し、その指示に従ってください。

※上記以外の変更であっても、導入設備の変更等により省エネルギー効果や設備能力が変わる場合には、**補助対象から外れる可能性があります**。

※設備、経費、施工時期などが、当初の予定と変わることが判明した場合は、速やかに県に報告し、その指示に従ってください。

**⑥ （完了報告）請求書の提出**

次の書類を揃え、（完了報告）請求書を提出します。

ア 提出書類

- (ア) 事業者向け省エネルギー対策推進事業費補助金交付（完了報告）請求書（様式第4号）
- (イ) 設備の購入及び設置工事に係る支払い義務額を支払ったことを示す書類（領収書等）の写し
- (ウ) 設備の購入及び設置工事に要する経費の内訳が確認できる書類（明細書等）の写し
- (エ) 設備の購入及び設置工事に係る契約が確認できる書類（契約書等）の写し
- (オ) 設備設置後の状況が確認できる写真
- (カ) 省エネルギー診断の結果の写し（交付申請後に省エネルギー診断を受診した場合）
- (キ) いわて地球環境にやさしい事業所認定書の写し（「いわて地球環境にやさしい事業所」の区分で交付申請した場合）
- (ク) その他必要な書類

イ 提出期限

事業完了日から起算して 30 日を経過した日又は事業実施年度の 2 月末日のいずれか早い日とします。

**【注意】**

上記の提出期限を越えた場合、補助金が交付されない場合があります。**提出期限は厳守**してください。

なお、（完了報告）請求書の最終期限（2022年2月末日）までに、省エネ診断の受診結果を受理していない場合は、期限内に事業が終了したこととならず、補助金が交付されない場合があります。御留意ください。

- ウ 提出部数  
1部
- エ 提出方法  
郵送又は持参でお願いします。
- オ 提出先  
申請時の提出先と同じです。

#### ⑦ 補助金の交付

県は、⑥の書類が事業者から提出され、内容を審査し、適正であると判断された場合、補助金を交付します。

## 8 事業の実施後の留意事項

### (1) 事業実施後の県事業への協力等

「6 省エネ効果に関する情報発信と県事業への積極的な協力等」に記載したとおり、社外への情報発信、従業員への意識啓発、県へのデータ提供、県事業への積極的な協力を行うものとします。

### (2) 財産の適正管理

補助事業者は、この補助金により取得した設備を、補助事業完了後においても、善良な管理者の注意を持って管理するとともに、補助金交付の目的に従い、その効率的な運用を図らなければいけません。

### (3) 財産の処分に係る申請等

補助事業者が、この補助金により取得した設備の財産処分を行う場合は、補助金に係る財産処分承認基準（平成21年11月2日予第174号）に定める財産処分承認申請書を知事へ提出しなければいけません。

### (4) 関係書類の保管

補助事業者は、この補助金に係る書類については、「補助金等により取得し、又は効用の増加した財産の処分制限を定める省令（昭和53年8月5日通商産業省告示第360号）」及び「減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年3月31日大蔵省令第15号）」に基づき、その該当償却期間、整備保管してください。

### (5) 立入検査等

県は、予算の執行の適正を期するため、補助事業者に対して、必要な報告を求め、または、当該職員に、その設置場所等に立ち入り、帳簿書類その他必要な物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることがあります。

## 9 その他関連事項

### (1) 耐用年数表 [抜粋]

減価償却資産の耐用年数等に関する省令に規定する償却期間は次のとおりです。

	種類	構造又は用途	細目	耐用年数
①	建物附属	電気設備（照明設備を含む。）	その他のもの	15年
②	設備	冷房、暖房、通風又はボイラー設備	冷暖房設備（冷凍機の出力が22kW以下のもの）	13年
③			その他のもの	15年
④	器具及び	家具、電気機器、ガス機器及び家庭用品（他の項に掲げるものを除く。）	冷房用又は暖房用機器	6年
⑤	備品		電気冷蔵庫、電気洗濯機 その他これらに類する電気又はガス機器	6年

	種類	設備の種類	細目	耐用年数
⑥	機械及び装置	（各業種用の設備）	その他の設備	業種により異なる

実際に導入する設備がどれに該当するかは、以下のホームページ等を参考に、各自ご確認ください。また、不明点については管轄の税務署にお問い合わせください  
 ≪耐用年数表≫

<https://www.keisan.nta.go.jp/h30yokuaru/aoiroshinkoku/hitsuyokeihi/genkashokyakuhi/taiyonensuhyo.html>

なお、「本事業で想定している導入設備は概ね次のとおりになると考えられます。  
 （設備によって必ずしもこのとおりになるとは限りません）

	使用用途	上の表の番号	耐用年数
LED照明		①	15年
空調設備	建物構造と一体のもの	②または③	13年または15年
	器具・備品と見なされるもの （家庭用エアコン等）	④	6年
給湯設備		⑤	6年
変圧器	事務所用・電灯配線	①	15年
	製造業等の工場機械の動力線 ・分電盤	⑥	業種により異なる

## (2) 外部参照

本手引き内で触れた外部参照アドレスを次の一覧のとおり再掲します。

### ①年間のエネルギー使用量（原油換算値）の確認

《経済産業省 HP》

[https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving\\_and\\_new/saving/summary/](https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/summary/)

自社のエネルギー使用量を把握するための計算ツール

エネルギー使用量の簡易計算表

### ②省エネルギー診断等の実施機関の例

《一般財団法人省エネルギーセンターHP》

<https://www.eccj.or.jp>

《地域プラットフォーム構築事業》

<https://www.shoene-portal.jp>

《工場・事業場における先導的な脱炭素化取組推進事業》

### ③「いわて地球環境にやさしい事業所」認定制度の概要

《岩手県 HP》

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/kankyou/seisaku/jigyosho/1005672.html>

### ④家庭のエコチェック

《岩手県 HP》

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/kankyou/seisaku/ondanka/1025482.html>

### ⑤耐用年数表

《国税庁 HP》

<https://www.keisan.nta.go.jp/h30yokuaru/airoshinkoku/hitsuyokeihi/genkashokyakuhi/taiyonensuhyo.html>

## <事業に関する問い合わせ・申請先>

岩手県環境生活部環境生活企画室 温暖化・エネルギー対策担当

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1

電話：019-629-5272

FAX：019-629-5334

E-mail：AC0001@pref.iwate.jp